JAAF CHIBA

千葉陸協だより

発行；千葉陸上競技協会総務委員会広報部　　2017 年 2 月発行

第 9 号

人心収攬を図り発展を

副会長　藤原　生通

役員・理事はじめ関係者の皆様のご理解とご協力をいただき、一般財団法人千葉陸上競技協会は順調な発展を遂げていると実感しています。改めて感謝申し上げます。

2016 年リオデジャネイロオリンピックにおいて、我が日本陸上競技陣は男子 4 × 100 mリレーで銀メダルを獲得し、私たちに感動を与えてくれました。健闘を称えるとともに、 4 年後の東京大会に向けて大いなる活躍を期待します。

さて、本協会が事業面の柱として位置づけている競技力向上と競技運営について、2016 年度の実績をもとに述べてみます。競技力向上については、その指標となる国体の成績でみると天皇杯 4 連覇後暫く低迷していましたが、平成 28 年度岩手国体では天皇杯 6 位の成績と健闘し、復活の兆しがみえてきました。大変うれしく思うとともに、更なる競技力向上に努めてほしいと思います。

競技運営については、平成 28 年度関東陸上競技選手権大会が本県で開催されました。猛暑の中の 3 日間でしたが、久しぶりの大規模大会に、主管陸協として総力をあげて運営にあたりました。本県での日本陸連主催の主管競技会はなくなりましたが、県内競技会の充実には一層力を注いでほしいと思います。業務推進体制の構築などチェックして、今後に備えていかなくてはなりません。

ところで､永く主管していた「国際千葉駅伝」と「千葉国際クロスカントリー」の 2 大会が、諸般の事情から終了したことは本協会にとって残念なことでした。特に、「国際駅伝」については誘致の段階から携わった一人として寂しい限りです。「千葉国際クロカン」については、千葉県が日本のクロスカントリー競走の歴史と伝統の地であると自負していました。日本陸連の方針で後発の「福岡国際クロカン」に一本化されてしまいましたが、本県開催の歴史と伝統も引き継ぎ発展を続けてほしいと思います。今後は、トラック＆フィールドのメジャー競技会を本協会が主管できるよう願っています。

私は、昭和 39 年から 53 年間の永きにわたり本協会の役職を務めてまいりましたが、今年度末で退任いたします。多くの役職を歴任し、特に理事長兼務や会長代行も務めた副会長としての 12 年間は多忙な毎日を過ごしました。 2 巡目開催の国体で天皇杯 4 連覇の達成があり、これは静岡、埼玉と並ぶ偉業で忘れられない思い出となりました。退任に際し、役員・理事はじめ多くの方々にご理解ご協力いただいたことに感謝いたします。今後とも、豊かな見識と健全な判断力をもって、本協会の発展に尽力されることを期待します。

大会報告

アクアラインマラソン 2016

平成 24 年に始まった千葉アクアラインマラソンは、隔年開催で行われ今回で 3 回目、心配された雨もどこへやら、日焼けが心配されるほどの好天でした。風はやや強めでしたが今回も海上を走ることが規制される風速 10 m以上とはならず、文字通り「アクアラインマラソン」を毎回実施できているのは、うれしい限りです。

前回からハーフマラソンが導入され、今回さらに車いすマラソンが行われるようになるなど、毎回グレードアップされる大会は、隔年開催だからこそかもしれません。関係者の皆様のご協力に感謝し、次回も無事開催されますように。

■優勝者

車いすマラソン	男子：鈴木朋樹（関東パラ陸上競技協会）	女子：土田　和歌子（八千代工業）
ハーフマラソン	男子：サイラス　ジュイ（セブスポーツ）	女子：吉田　香織（TEAM　R × L）
フルマラソン	男子：千葉　健太（富士通）	女子：山口　遥（AC　KITA）

第 32 回東日本女子駅伝

昨年度の優勝に引き続き、連覇を目指した東日本女子駅伝でありましたが、惜しくも 33 秒差で第 2 位という結果となりました。

シニア選手とジュニア選手が襷をつなぎ、陸上王国千葉の力を存分に発揮してくれました。選手・監督の皆さん、関係者の皆さん、ご苦労様でした。

■成績：千葉県　第 2 位　2 時間 18 分 28 秒

[加世田 - 木村 - 佐々木 - 風間 - 尾西 - 関谷 - 笹野 - 小杉 - 青山]

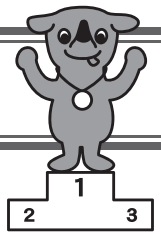
陸上競技部紹介　「船橋市立船橋高等学校」

市立船橋高校陸上競技部は、男女短距離部・男女長距離部の部員 113 名が全国の頂点を目指し日々練習に励み、地域からも愛され応援されるチームになれるよう活動しています。練習環境は船橋運動公園や海老川遊歩道など学校からは離れていますが、これも練習の一環だと考えると苦にはなりません。今年度の関東高校陸上では学校対抗で男女とも総合 2 位、男女 4 種目で優勝、全国高校総体では女子総合 5 位、女子走高跳 2 位を始め男女 6 種目で入賞を果たしました。県高校駅伝では男子優勝、女子 3 位となり、男子は 2 年ぶりの都大路※1 に向けて練習に余念がありません。部員ひとり一人が自覚と誇り胸に、新たな伝統を創るべく突き進んでいきます。

※1　全国高校駅伝 (12/25 京都)　第 10 位　2 時間 06 分 29 秒

※部活動紹介コーナーに登場してくれる部活動を募集しています。我こそはと思う部活動の方は千葉陸協までご連絡ください。

記録室　国際大会入賞者・国内大会優勝者・駅伝大会



リオデジャネイロオリンピック（H28.8.12 ～ 21　リオ）

男　子　棒高跳　澤野大地　5 m 50　⑦ 富士通

国民体育大会（H28.10.2-6　岩手）

少年 A 女子　400mH　村上夏美　59.16　① 成田

ジュニアオリンピック（H28.10.28-30　横浜）

男子 A　走高跳　青沼徳大　1m98　① 河原塚中
女子 A　3000m　風間歩佳　9.24.42　① 船橋旭中

日本ジュニア選手権（H28.10.21-23　瑞穂）

女　子　400m　秦野南美　54.72　① 東海大望洋高

日本ユース選手権（H28.10.21-23　瑞穂）

男　子　400mH　本間涼太　52.87　① 成田高
男　子　走高跳　髙橋竜輝　2 m06　① 東京学館船橋高
男　子　走幅跳　青柳柾希　7 m52　① 成田高
男　子　やり投　畦地将史　64m31　① 東葛飾高
女　子　400mH　村上夏美　1.00.14　① 成田高

全国高校駅伝（H28.12.25　京都）

男子　市立船橋高校　第 10 位　2 時間 06 分 29 秒　（髙橋－安田－小島－鳥飼－川上－佃－小鷹）
女子　成田高校　第 5 位　1 時間 08 分 47 秒　（加世田－笹野－石川－座間－端山）

全国中学駅伝（H28.12.18　滋賀）

男子　我孫子市立白山中学校　第 4 位　57 分 41 秒　（野島－林田－山本－山田－辻－親里）
女子　鎌ヶ谷市立第四中学校　第 6 位　42 分 13 秒　（青山－平林－鈴木－根岸－金原）

おしらせ

【栄章贈与者の紹介】

日本陸上競技連盟　栄章
高校優秀指導者章　浅野真吾　西武台千葉高等学校教諭
中学優秀指導者章　福井康則　茂原市立冨士見中学校教諭
高校優秀選手章　新井拓磨　柏日体高等学校
中学優秀選手章　平野壮太　茂原市立冨士見中学校

千葉県体育協会功労賞
稲葉正充　（国士舘大クラブ）

関東陸上競技協会功労章
髙木義雄　（国士舘大クラブ）

関東陸上競技協会感謝状
塩谷常三郎　（鴨川市陸上競技協会）
安藤佳子　（ベルランニングクラブ）
長谷川弘之　（国士舘大クラブ）

安藤百福記念章
宮野　篤　（轟アスレチックス・コミット）

千葉陸上競技協会　栄賞

平成 28 年度功労章
古舘宣夫　（松戸市陸上競技協会）
畠中京子　（我孫子市陸上競技協会）
森田　仁　（ＴＡＣ）

平成 27 年度勲功章
草野誓也　リニアート
荒井七海　東海大学
橋本孝興　日本大学
染谷　翔　西武台千葉高等学校
大坂智哉　成田高等学校
山本令央　木更津総合高等学校
橋本梨沙　幕張総合高等学校
平野壮太　茂原市立富士見中学校
谷藤千夏　船橋市立海神中学校
風間歩佳　船橋市立旭中学校

平成 27 年度千葉県最高記録章
高瀬　慧　富士通　男子 100m　10.09
　　男子 200m　20.14
鈴木雄介　富士通　男子 5000mW　18.37.22
　　男子 20kmW　1.16.36.
成田高等学校　女子 4 × 400mR　3.42.15
太田麻香 / 村上夏美 / 並木静香 / 豊田　麗
（併せて、千葉県高校記録章も受賞）

平成 27 年度千葉県高校記録章
永原秀人　成田高等学校　男子 5000mW　20.29.34
小野　翼　木更津総合高等学校
　　男子ハンマー投 (6.000kg)　62.57

この人に聞く

千葉のアスリート紹介

千葉県 PR マスコットキャラクター　チーバくん
千葉県許諾第 A287-11 号

第 9 回　村上　夏美 さん

はじめまして、成田高等学校の村上夏美です。私は成田高校に進学して様々な経験をさせてもらっています。高校 1 年の時には和歌山インターハイで 4 × 400 m R で 3 位に入賞することができました。全国大会で初めての決勝のレースだったので不安もありましたが、先輩方が励まして下さったので自分にとってとても大きな力となりました。個人種目とはまた違い、チームで一緒に走る一体感を味わえ、とても良い経験になりました。400 m H では南関東大会で終わってしまい、インターハイにつなげることができませんでした。その悔しさを糧に練習に励み、日本ユース大会では高校 1 年歴代 1 位の記録で 3 位に入賞することができました。昨年は岡山インターハイで優勝することを目標に練習に取り組みましたが、あと一歩届かず 3 位という結果で終わってしまいました。納得のいくレースができず、 1 位まであと 0.05 秒差というところで負けてしまいとても悔しく思いました。しかし、岩手国体の代表に選出していただき、「インターハイのリベンジ」という強い気持ちで挑むことができました。その結果、優勝という最高のかたちにつながり、リベンジを果たすことができました。そして日本ユース大会でも優勝することができ、自分にとって大きな自信につながりました。日本一になることができたのは、自分一人の力だけでなく、先生方や家族、仲間の応援やサポートがあったからだと思っています。恵まれた環境の中で練習ができることに感謝をし、支えて下さる方々への感謝の気持ちも忘れずこれからの日々の練習に励んでいきたいと思います。そして少しでも恩返しができるようしていきたいと思います。今年は高校最高学年として、山形インターハイや愛媛国体でも優勝ができるよう、そして、より大きな舞台で戦える選手になれるよう練習に取り組んでいきたいと思います。また 3 年後に控えた東京オリンピックを目指し、更なる努力をしていきます。

プロフィール
村上　夏美　神崎中 → 成田高
岩手国体 優勝 400mH　59 秒 16

発行　一般財団法人　千葉陸上競技協会
〒 263-0011　千葉市稲毛区天台町 323
千葉県総合スポーツセンター内
TEL：043-252-7311　FAX：043-252-7314
http://www.jaaf-chiba.jp/